

「日本酒若手蔵元活性化プロジェクト」 採択事業者が決定しました！

新進気鋭の若手蔵元たちの成長に密着しませんか？

～ 酒蔵向けビジネスコンペ 日本酒若手蔵元活性化プロジェクト ～

茨城から斬新な日本酒を誕生させる「日本酒若手蔵元活性化プロジェクト」において、令和4年（2022年）6月23日に茨城県庁にてコンペを行い、**県内の若手蔵元たちから募った企画10件中4件を採択しました。**

今後、採択した4企画は、外部アドバイザーの伴走支援や経費補助の支援を行いながら、3月のお披露目会に向けてプラン実現をしていきます。その中でも、試飲会や製造時期の取材受け入れなども実施いたします。

是非、新進気鋭の若手蔵元たちの成長にご注目・ご取材いただきたく、ご案内申し上げます。

※以下、テーマは応募時点。企画を進める中で変更する可能性があります。

湖底が可能性を広げる、Aging Sake



岡部合名会社
岡部 彰博 氏(41)

自転車愛好家専用 微発泡自然派新ブランド Buyu Cycle



株式会社武勇
深谷 篤志 氏(46)

「有機米×伝統的生酏」革新的 日本酒スパークリングの販売PR



株式会社月の井酒造店
坂本 直彦 氏(35)

お家で樽酒



吉久保酒造株式会社
吉久保 博之 氏(41)

<報道関係者のみなさまへお願い>

- 本プロジェクトは秘匿性が高く、競合他社への情報漏洩を防ぐ観点から、令和5年3月まで企画内容の公表ができません。
- 追いかけて取材にご興味のある報道関係者の方には、個別にご説明させていただきますので、担当までお問い合わせください。

<本件に関するお問合せ先>

茨城県 産業戦略部 技術振興局 技術革新課 富長 (029-301-3585)

<日本酒若手活性化プロジェクトとは>

茨城県内産日本酒の更なる振興を目的に、これまで日本酒を飲んでいなかった人達へもマーケットが広がるような斬新な発想のビジネスプランを、茨城県内酒蔵の若手から募るプロジェクト。

ソムリエの田崎真也氏をはじめとする日本を代表する有識者を前にプレゼンを行い、優秀と認められたプランに対して、3月のお披露目をゴールに完成まで茨城県がサポートを行います。

【本プロジェクトの面白さ ～ここが推し！～】

多種多様な若き蔵元や造り手達が、品質一辺倒の従来の戦い方から一新し、「ビジネス」として家業（伝統産業）と向き合い、3月のプロジェクト発表会に向けて成長する様子を追うことができます！

【茨城県と日本酒】

茨城県は酒蔵数が多く、茨城県産の日本酒は国内外の鑑評会で高い評価を得ています。一方で、まだまだ知名度が低いため、課税移出数量（≒出荷量）は年々低迷している状況です。

【なぜこのタイミングなの？】

日本を代表する酒として古くから愛される日本酒。しかしながら今、業界は強烈な向かい風を受けています。さらにはコロナ禍によるダメージでその存続は崖っぷちに…。

世界がポストコロナへ向き始めた今こそが、二度と逃せない起死回生のタイミング！

【報道機関の皆様へ】

1. 今後のスケジュールはおおよそ以下を予定しておりますが、案件により異なりますのでお問合せください。

- 8月 : 外部アドバイザー（*）とのキックオフミーティング
（*）今回審査委員も務めた山同敦子氏らに依頼。
8～10月 : デザイン検討

〈こんな画が撮れます〉

外部アドバイザーや委託先と共に、
デザイン開発や酒質設計、
販売戦略を考えていきます（打合せ、テイスティング等）



- 11月～ : 製造開始

〈こんな画が撮れます〉

製造のプロ（*）のサポートも受けながら、
理想の酒質へ近づけます
（*）茨城県産業技術イノベーションセンター



- 9月～2月 : 流通・プロモーション部分
3月 : お披露目会（詳細未定）

2. 取材可能な範囲

- ① 本事業に関する下記例の情報が取材可能です！ ※蔵から別に指示があった場合はご配慮ください
例) 蔵名／担当者名／プラン名／コンセプト／製品に関する詳細情報／外部アドバイザーとの打ち合わせ風景／お酒の画（テイスティング等）／製造に関わるシーン／開発状況 など
- ② 外部アドバイザーとの打ち合わせ日・製造シーンの取材日は、県からプレスリリースします
- ③ ②以外の個別取材は技術革新課が調整しますので、ぜひご連絡ください

<本件に関するお問合せ先>

茨城県 産業戦略部 技術振興局 技術革新課 富長（029-301-3585）